

	キャリア教育の視点	キャリア教育における課題分析	授業改善策
1 年	自分のよいところを見付ける力	・学校評価児童アンケート(7月)によると、78%(学年)の児童がよいところが言えると回答している。道徳(個性伸長)の授業で自分のよいところを見付ける活動を行った際には、自分のよいところを見付けることができる児童が多かった。一方で、「よいところ」がどんなことを指すのがよく分かっていない児童もいる。	・自分のよいところを見付けたり、友達に見付けてもらったりする活動を帰りの会等に積極的に取り入れる。見付けたよさを発表する機会を設けるなどして、学級、学年全体に広げていき、自信の持てない児童には自信を育む声かけをみんなができるようにする。普段の生活の中で、ちょっとしたことでも積極的に褒めるようにし、よいところに気付かせるようにする。
	次のことを考える力	・学校評価児童アンケート(7月)によると、92%(学年)の児童が、いろいろなことに目標をもって笑顔で(粘り強く)挑戦していると回答している。一方で、課題に対して、ある程度取り組むと、そこで満足してしまう児童もいる。	・学年目標の合い言葉「いまがんばろう」を意識させ、「いま」何をすべきかを常に振り返らせていく。また、「いまがんばろう」のめあてを意識させ、今やることを明確にし、ゴールの見通しをもつことができるように板書やワークシートを工夫していく。
	みんなで学び聴く・伝える力	・学校評価児童アンケート(7月)によると、「相手の話を「めとこころ」でしっかり聞こうとしている」と回答した児童は、94%(学年)であった。相手の話をしっかり聞くことは大切だと思っている児童は多く、自己評価は高い。ただ、朝会や授業の様子を見ていると、最後まで静かに話を聞くことができない児童がいる。	・国語科の授業を中心に、相手の話を聞いて、質問をしたり、感想を述べたりする活動をいろいろな場面でも取り入れていく。掲示物等で聞き方、話し方を常に振り返れるようにし、よいモデルを全体で共有していく。また、二人組や少人数グループでの対話を授業の中に取り入れ、順序立てて自分の思いを伝え、友達の話をしっかり聞く態度を育てていく。
2 年	自分のよいところを見付ける力	・学校評価児童アンケート(7月)によると、57.3%の児童がよいところが言えると回答し、前年度より減ってしまった。1年生の時より学習が難しくなり、周りの様子が見えるようになったことで、自分への評価が厳しくなったのではないかと考えられる。道徳(個性伸長)や学活の授業等で、友達のよいところは見付けられるが、自分のよいところがなかなか書けない児童がいる。	・道徳や学活の授業などで、自分のよいところを見付けたり、見付けてもらったりできるよう自己理解につながる授業展開を意識して行っていく。そのままの自分をお互いに認めあえる雰囲気学級を展開していく。 ・各教科授業等では、できるようになったことを自分で意識できるように振り返りの時間を充実させる。 ・できないことを意識させるのではなく、できるようになったことを認める

			声掛けを増やす。
	次のことを考える力	・学校評価児童アンケート（7月）によると、80%（学年）の児童が、いろいろなことに目標をもって笑顔で（粘り強く）挑戦していると回答している。授業の様子から、言われたことは積極的に取り組む児童は比較的多いが、計画を立てて学習に取り組んだり、目標をもって挑戦したりするなど、自分で決めて進めていくことはまだ難しい。	・単元の始めにこの学習を通して「何ができるようになるのか」を意識させ、自分のめあてをもたせる活動を重視する。見通しをもって学習に取り組むことができるようワークシートを工夫する。 ・周りの様子に注意を払い、今やるべきことと次にできることを意識させ、「アンテナ」の合言葉で注意喚起を行う。
	みんなで学び聴く・伝える力	・学校評価児童アンケート（7月）によると、「相手の話を「めところ」でしっかり聞こうとしている」と回答した児童は、88%（学年）であった。相手の話をしっかり聞くことは大切だと思っている児童は多く、自己評価は高い。ただ、朝会や授業の様子を見ていると、最後まで静かに話を聞くことが難しい児童がいる。	・話す方も項目立てて話す工夫をし、その内容を児童自身がどれだけ理解できていたかを確認する時間を適宜とり、児童の自己評価を振り返らせる。 ・国語科の授業を中心に、相手の話を聞いて、質問をしたり、感想を述べたりする活動をいろいろな場面でも取り入れていく。掲示物等で聞き方、話し方の常に振り返れるようにし、よいモデルを全体で共有していく。 ・自分の思いを書く機会（日記等）を設け、伝えたい、知らせたいという動機付けを行っていく。
3年	自分のよいところを見付ける力	・学校評価児童アンケート（7月）によると、児童がよいところが言えると回答した児童は 68.3%（学年）にとどまった。また、道徳や学級活動（3）の授業で自分の良いところについて考える授業を行ったところ、よいところが言えないと感じた児童が多くいた。児童の中には、自分のできごと、続けていることに自信がもてていなかったり、そもそもそれがよいところだと認識していなかったりする児童が一定数いる。	・道徳や学級活動（3）で、自分のよいところについて考えたり、友達に見付けてもらったりすることで自己肯定感をあげられるように指導する。 ・さらに道徳などで、短所を長所に変えられるように働きかけていく。そのことによって、自分のよさを多角的に捉える力を育てる。 ・学校行事（運動会や音楽会）に前向きに取り組めるように指導し、所属意識をもち、自信をもって活動できることや肯定感が上がるようにする。
	次のことを考える力	・学校評価児童アンケート（7月）によると、児童が自分で学習計画を立てられていると回答した児童は 63.8%（学年）にとどまった。家庭学習の実施状況から、概ね日々の計画やルー	・児童と一緒に学習計画を立て、見通しをもつ活動を丁寧に行うことで見通しがもてるようにする。また、計画通りにできた児童については価値付けをし、自信をもって学習ができるよう

		ティーンを決めて取り組むのが難しいという様子もうかがえる。 ・学習の見通しをもたずに家庭学習や学校での学習に取り組んでしまい、時間が足りずに課題を終えることのできない児童がいる。	にする。 ・見通しをもって取り組んだ学習の様子を振り返る習慣をつけるため、「めあてを意識してふりかえろう」をキャリア目標とし、学習の過程を振り返り、次の学習に活かしていく。
	みんなで学び 聴く・伝える力	・学校評価児童アンケート（7月）によると、「相手の話をしっかりと聞こうとしている」と回答した児童は93%（学年）であった。実態として、友達と一緒に話し合う活動については、意欲的な児童が多いが、自分の考えを伝えるだけでなく、相手の話を受け止める聞き方について手立てが必要である。	・相手の話をしっかりと聞く姿勢を大切にするとともに、聞き手を意識したコミュニケーションができるよう、「聞く・話す」のルールを子供とともに作り上げて活用する。 ・この項目のキャリアの目標を「相手とつながる」とし、単に話し合いの仕方を理解するだけでなく、相手と関わろうとする姿勢がもてるようにする。
4 年	自分のよいところを見付ける力	・学校評価児童アンケート（7月）の結果より、「自分のよいところを言える」と回答した児童は63.4%（学年）であった。自分のよいところについて考える授業を行ったところ、自分のよいところは認識しているが伝えることは遠慮する児童が多くいた。昨年度に引き続き、自分のできごと、続けていることに自信がもてていなかったり、そもそもそれがよいところだと認識していなかったりする児童が一定数いることが分かった。	・「友達のよいところを伝えたり、感謝の気持ちを言葉にしたりする」と回答した児童は86.6%（学年）であるため、よいところを伝え合ったり、友達に見付けてもらったりするような活動を今後も取り入れる。 ・総合的な学習の時間で、普段自分が自然にやっていることが、周りの人から見たら自分のよさや自分らしさであることに気付くことができた。けやき班活動などの特別活動を行う際に、自分のよさをいかせるような役割分担を行い、成功体験や達成感を得られる活動を継続していく。
	次のことを考える力	・学校評価児童アンケート（7月）によると、84.7%（学年）の児童が自分で学習計画を立て、宿題や家庭学習に取り組んでいると回答している。家庭学習の実施状況から、概ね日々の計画やルーティーンを決めて取り組んでいる様子うかがえる。 ・学習の見通しをもたずに家庭学習や学校での学習に取り組み、時間が足りずに課題を終えることのできない児童が一部いる。	・単元計画の中で、児童自らがめあてをもち、めあてに沿った計画が立てられるように授業展開を工夫していく。また、調べ学習においては、何をどのように調べるか、テーマや調べる方法を明確にして学習に取り組むことができるようワークシートや学習展開の工夫を行う。
	みんなで学び	・学校評価児童アンケート（7月）によ	・今後も日常的な聞き方や話し方の指

	聴く・伝える力	ると、「相手の話を目と耳と心でしっかり聞こうとしている」と回答した児童は96.2%（学年）であった。	導に加えて、「聞きたい、伝えたい」という必要感をもたせる学習形態の工夫をしていく。友達の考えと自分の考えを比較・分類する時間をとるなど、聞く時の視点を明確にして授業を展開していく。 ・何のために話し合いをしているのか目的を明確にした上で、友達の意見のよいところに着目し、新たな発見や創造力を育めるよう支援する。
5年	自分のよいところを見付ける力	・学校評価児童アンケート（7月）によると、「自分のよいところを言える」と回答した児童は66.6%であった。 ・自分のよさに気付いていない、人より特に優れていないと「よいところ」と認識していない児童がいる。	・自分の役割を意識して活動に取り組み、振り返ることにより、がんばったことや成果を認識しやすくする。 ・がんばっていることや、続けていることも、自分のよさであることを教師や児童同士で価値付ける機会を設ける。
	次のことを考える力	・学校評価児童アンケート（7月）によると、「自分で学習計画を立て、宿題や家庭学習に取り組んでいる」と回答した児童は78.5%であった。 ・与えられた課題に一生懸命取り組むことができるが、自主的に課題を設定して取り組む経験が不足している。	・生活面では、授業準備や教室移動等、場面ごとに意識することを継続的に指導することで習慣化を図る。 ・学習面では自己を振り返る機会や自主学習の機会を設けることで、自らの課題を把握し、必要感をもって主体的に学習に取り組むことができるようにする。
	みんなで学び聴く・伝える力	・学校評価児童アンケート（7月）によると、「相手の話をしっかり聞こうとしている」と回答した児童は92.4%であり、相手の言いたいことを受け止めようとする姿勢が育っている。しかしながら、伝える力については、発表に苦手意識を感じていたり、相手に伝わっているか自信がもてなかったりする児童がいる。	・伝える力を育てるために、全体やグループなど発表の機会を設けることにより、伝える経験を積み重ねる。 ・発表後には教師や児童同士でフィードバックを行うことによって、よかったところを認め合い、よさを広げていく。
6年	自分のよいところを見付ける力	・学校評価児童アンケート（7月実施）によると、「自分のよいところを言える」と回答した児童は71.3%であった。様々なことに挑戦（一歩踏み出す）することで、自分らしさに気付いたり新しい自分を発見したりできるような授業展開がより一層必要である。	・学校生活において（学習や生活に関わらず）自分がどのように頑張ったのか、何ができるようになったのかを振り返る時間を大切にし、「自分のよさ」として自覚できるようにする。また、「一歩踏み出すことで新しい自分のよさにも気付ける」という価値を共有し、学校行事や特別活動などで様々な

			役割に立候補する機会を与えていく。
	次のことを考える力	・学校評価児童アンケート（7月実施）によると、「友達や学校のみんなの役に立つことを考えたり、行動したりしていますか。」と回答した児童は88.7%であった。「人のため」という意識を今後も大切にしながら、一つ一つの取り組みが自分のよいところを生かせる場でもあることを自覚させたい。	・誰かのために行動すること自体が「よさ」であることを伝えた上で、その行動が自分らしさを生かしたものであればさらにより効果が生まれると指導していく。教科によって、自分のよさをどこで生かせるか学習計画を立てる際に考えさせ、実行できるように指導していく。
	みんなで学び聴く・伝える力	・学校評価児童アンケート（7月実施）によると「友達のよいところを伝えたり、感謝の気持ちを言葉にしたりしていますか。」と回答した児童は89.1%であった。仲間の努力や挑戦を素直に認めることはできるが、集団として個々の頑張りに依存しているところが大きい。	・「チーム」としての意識をさらに高めるために、めあてに向かって一人一人ができること、自分のよさを発揮できる方法を考え学習に取り組ませる。一部の人が活躍するのではなく、全員が仲間のよさを認識し、集団の中でそのよさを発揮できる学習過程を構築していく。
音楽	自分のよいところを見付ける力	・自分に自信が無く、課題に取り組もうとしなかったり、うまくできないとやめてしまったりする児童がいる。 （「自分のよいところを言える」67.4%）	・振り返りの時間を設け、変容を自覚できるようにする。 ・友達同士認め合う活動を増やす中で、自分のよさにも気付くようにする。
	次のことを考える力	・振り返りの場面で次時のめあてを自ら考えることが難しい児童がいる。 （「目標をもって挑戦する」88.5% 「学習計画を立て、取り組む」83.3%）	・めあてを意識し、見通しをもった授業展開を工夫する。 ・振り返りをした後に何人か発表させ、全体で振り返りをを行い次のめあてを考えていく。
	みんなで学び聴く・伝える力	・音楽は目で見えないため、よさや面白さがあやふやだったり、伝えるのが難しかったりする児童がいる。 （「相手の話をしっかり聞く」93.4%）	・聴く視点を明確にする。 ・音楽を図で表すことで視覚化する等、お互いの工夫を共有しやすくする中で学び合う力もつけていく。
図画工作	自分のよいところを見付ける力	・意欲をもてない児童、意欲や集中力が持続しないがいる。	・意欲を引き出すような導入や、日頃からどんなことに自分は興味があるか思い起こさせるなどしながら、意欲をもてるようにする。 ・気軽に取り組める「おえかきプリント」で、自分の好きなものについて考える機会をつくり、絵を描くことへの抵抗感を減らす。
	次のことを考える力	・自分の発想を生かして考えることが難しい児童がいる。	・スモールステップを設定したり、視覚的なヒント、ワークシートを活用した

			りしながら次への見通しや意欲をもたせる。
	みんなで学び 聴く・伝える力	・自分の作品を作ることに集中し、周囲の作品を見て学ぼうとする児童が少ない。	・他の児童の良さに気付けるよう、適宜、作品の紹介をしたり、鑑賞を促す声かけをしたりする。児童が互いの取り組みや作品のよさを認め合えるようにする。 ・友達と交流する機会を意図的に創る。
算 数	自分のよいところを見付ける力	・計算や算数の学習内容に苦手意識をもつ児童がいる。	・授業の導入や終末に、タブレットやプリント・算数ゲームなどで復習問題に取り組む時間を設け、児童の自信につなげる。
	次のことを考える力	・自己の課題に向けて立てた計画を見直したり、修正したりすることが難しい児童がいる。(学校アンケート「学習計画」の項目でマイナス評価 16.7%) ・複雑な問題になると、途中であきらめてしまう児童がいる。(学校アンケート「ねばりつよく」の項目でマイナス評価 11.5%)	・「算数得点アップウィーク」が終わった後で、児童が自らの課題を見直すことができるように、「算数だより」などを通して計画の見直しを促す。 ・途中の計算で間違わないように、朝学習や授業の導入・終末の時間を使って計算力を高める機会を設ける。 ・問題解決に至るまでの過程と、最後まであきらめずに取り組むことのよさを価値付け、集団内で共有する。
	みんなで学び 聴く・伝える力	・自分の考えに自信をもてず、発表につながらない児童がいる。 ・個の活動を学び合いに結びつけることが難しい児童がいる。	・周りの友達と相談する場面を設けたり、机間指導の際に言葉かけをしたりして、児童が自分の考えに自信をもてるようにする。 ・学び合い、学習を進めていくことのよさを価値付けていく。話し合いや発表の仕方をくり返し指導していく。
理 科	自分のよいところを見付ける力	・導入時や学習を進める中で自分達の疑問をもとに学習課題を作るのが難しい。	・児童の気付きを元に、話し合いをさせ、言葉を補いながら、学習問題を作らせる経験をさせる。
	次のことを考える力	・問題解決型の学習の流れ(問題～観察や実験～まとめ)が、定着していない。	・学習の流れに沿ってノートを書かせる指導を徹底する。 ・ノート指導の充実による思考トレーニングを続けていく。
	みんなで学び 聴く・伝える力	・積極的に意見を言える児童とそうでない児童の差がある。	・友達の話をしっかり聞くところから始めて、自分はどう思うのかの意思表示の場を設け、自分の考えをもてるようにする。

